警鐘レポート7　小児の急性腹症に関連した死亡
事例3
＜事例概要＞ ・幼児期の患児。嘔吐と下痢があり、近医を受診。症状が改善せず発熱を認めたため、夕方に外来受診。 ・39℃台の発熱があり、ぐったりしていた。血液検査でウイルス性胃腸炎、脱水症と診断し入院。入院時、体温40℃、脈拍190回/分台、SpO_2 96%。受診から約6時間後、上腹部の膨満を認め、ブジーを実施し少量の排ガス、緑色の泥状便を認めた。その後、茶褐色水様の嘔吐、顔色不良あり、医師へ報告。経過観察していたが、SpO_2 90％台前半となり、意識レベルが低下し、受診から約14時間後に死亡。 ・死因は、十二指腸潰瘍穿孔による出血疑い。解剖有、死亡時画像診断（Ai）有。